

レモン哀歌

あいか

高村光太郎『智恵子抄』より

そんなにもあなたはレモンを待つていた
かなしく白くあかるい死の床で
わたしの手からとつた一つのレモンを
あなたのきれいな歯ががりりと噛んだ
トパアズいろの香氣が立つ
その数滴の天のものなるレモンの汁は
ぱつとあなたの意識を正常にした
あなたの青く澄んだ眼がかすかに笑う
わたしの手を握るあなたの力の健康さよ

あなたの咽喉に風はあるが
のど

「いつの金の瀬戸内に

智恵子はもとの智恵子となり

生涯の愛を一瞬にかたむけた

それからひと時

昔山巓さんてんでしたよのうな深呼吸きこきを一つして

あなたの機関きかんはそれなり止まつた

写真の前に挿した桜の花かげに

すずしく光るレモンを今田も置おきて

テキストは「青空文庫」をもとに加工してます。

https://www.aozora.gr.jp/cards/001168/files/46669_25695.html